

2025年（令和七年）

12月5日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

当週(11月27日～12月3日)の国際石油市場は、需給緩和懸念が拡大する中、米露のウクライナ停戦協議をめぐる観測を主な要因に小刻みに推移した。

NYのWTI原油先物市場は、11月27日の休場後、28日は前営業日わずかに反落の58.55ドルで始まり、週明け12月1日59.32ドル、2日58.64ドル、3日58.92ドルで終わった。

また、中東産ドバイ原油/東京市場(12月渡し)も、前週(11月20日～26日)は63.10～64.00ドルの範囲で推移したが、当週は、11月27日63.20ドル、28日64.00ドル、12月1日64.30ドル、2日64.00ドル、3日63.20ドルだった。

対ドル為替レート(TM)は、前週(11月20日～26日)156.38～157.49円の範囲で推移したが、当週は、11月27日155.91円、28日156.63円、1日156.68円、2日155.70円、3日155.84円だった。

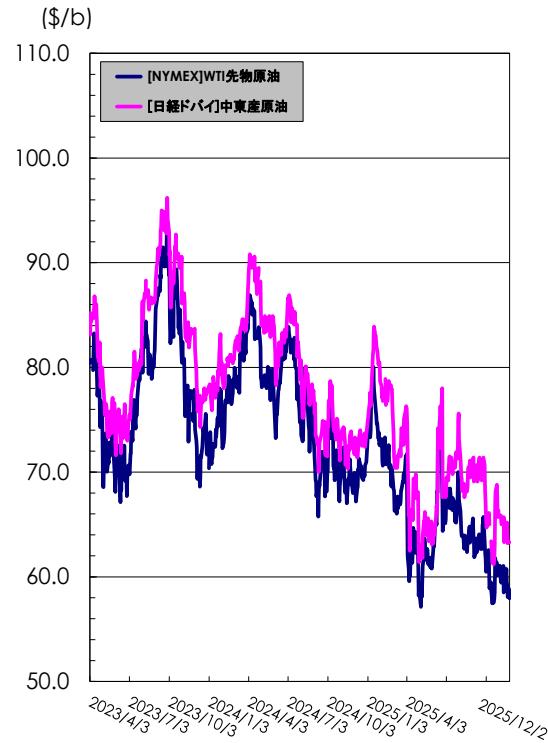
財務省が11月27日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、11月上旬の原油輸入平均CIF価格は69,360円/KLで前旬比1,197円/KL安、ドル建てでは72.61ドル/Bで前旬比2.47ド

ル/B高、為替レートは1ドル/151.85円。

そのような中で、12月1日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比4.0円安、軽油も同2.0円安、灯油は同2円安(18リットルベース)だった。暫定税率廃止に伴う11月27日の補助金増額によって、ガソリンの全国平均価格は164.8円だった。

12月4日～10日の燃料油補助金の支給額は、ガソリンは20.0円、軽油は17.1円、灯油・重油は5.0円の据え置きとなつた。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	11/23～11/29	2,677	▲ 53	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	〃	77.3	▲ 1.5	▼ -
	原油在庫量 (千㎘)	11/29	11,021	▲ 1,020	▲ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	12/2	64.30	▲ 1.00	▼ -7.6
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/1	59.32	▲ 0.48	▼ -8.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月上旬	72.61	▼ -1.47	▼ -7.62
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	〃	69,360	▼ -1,197	▼ -4,243
	②ドル換算レート (¥/\$)	〃	151.85	▼ -0.42	▼ -6.00
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/2	156.87	▲ 1.00	▼ -5.65



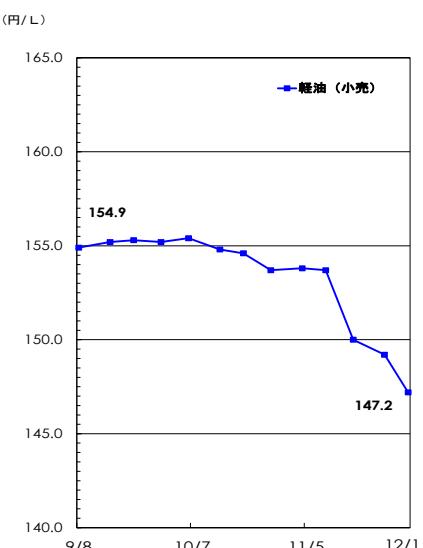
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/29	1,675	▼ -79	▼ -
価格	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/25 ~ 12/1	78.8	▲ 3.8	▼ -1.2
	(TOCOM/中部)	12/1	70.0	▼ -3.0	▼ -14.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/1	164.8	▼ -4.0	▼ -10.6

※先物価格は税抜き価格

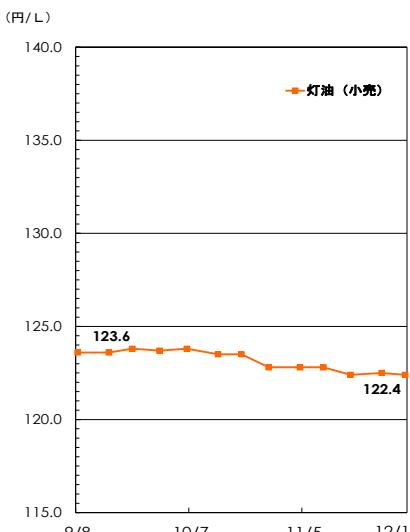


軽油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/29	1,388	▼ -52	▼ -
価格	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/25 ~ 12/1	80.0	▲ 5.8	▼ -3.0
	(TOCOM/中部)	12/1	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/1	147.2	▼ -2.0	▼ -7.9

※先物価格は税抜き価格



灯油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/29	2,350	▼ -48	▼ -
価格	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/25 ~ 12/1	86.0	► 0.0	▲ 6.0
	(TOCOM/中部)	12/1	84.0	► 0.0	▼ -1.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/1	122.4	▼ -0.1	▲ 4.8



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(11月20日～26日)のNYMEX・WTI先物市場は、57.95～59.14ドルの範囲で推移した。

当週11月27日は、感謝祭の休日のため、休場。

週末28日は、ウクライナとロシアの和平交渉が進まない中、対露経済制裁が続くとの観測から、買いが先行したが、その後、利益確定の売りや週末・月末の売りが優勢となり、小幅ながら反落した。30日開催予定のOPECプラス閣僚会議はこれまでの方針維持で新たな追加増産はないとの観測が出ていたものの、様子見ムードが強かった。1月物終値は前営業日(26日)比0.10ドル安の58.55ドル。

週明け12月1日は、29日のウクライナはロシア黒海沿岸のカザフスタン原油積み出し施設をドローン攻撃、また、トランプ大統領はベネズエラのマデューロ大統領と電話会談したものの軍事攻撃を示唆、地政学リスクの高まりで反発した。さらに、30日開催のOPECプラスの閣僚会議、それに続く有志8カ国会合も、従来の生産方針の維持を確認、新たな増産を見送った。1月物終値は前週末比0.77ドル高59.32ドル。

2日は、プーチン大統領は、トランプ大統領の特使と会談、ウクライナ和平を協議したが、前日高値の反動で、利益確定売りが多く、反落した。ただ、トランプ大統領は、ベネズエラへ

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局(EIA)の12月3日発表の11月28日現在の米国在庫週報によれば、原油在庫は前週末比60万バレル増と、市場予想(180万バレル減)に反する積み増し、ガソリンも450万バレル増、中間留分も210万バレル増と、ともに予想を上回る大きな積み増しだった。

EIAによると、12月1日時点でのガソリンの小売価格は、前週比7.6セント安の1ガロン2.985ドル(123.6円/㍑)と2週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格も、前週比7.3セント安の1ガロン3.758ドル(155.5円/㍑)と2週連続の値下がり。

ペーカーヒューズ社によると、感謝祭休日前日の11月26日時点での米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比12基減の407基であった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、11月23日～11月29日に休止したトップ能力は26.8万バレル/日で、前週に対して11.7万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は267.7万㎘と、前週に比べ5.3万㎘増加。前年に対しては7.2万㎘の減少。トップ稼働率は77.3%と前週に対して1.5ポイントの増加、前年に対しては2.1ポイントの減少となった。

の近日中の地上攻撃を明言するなど、緊張は高まっている。1月物終値は0.68ドル安の58.64ドル。

3日は、ウクライナ停戦を巡る米ロ協議難航が伝えられ、ロシア産石油の供給懸念が拡大、反発した。ただ、この日発表のEIAの米国石油在庫報告は、原油は市場予想に反する積み増し、ガソリン・中間留分は市場予想を上回る積み増しで、米国の需給の緩みを感じさせる内容となり、上値を抑えた。1月物終値は0.31ドル高の58.95ドル。

4 国内/製品在庫量

11月29日時点の在庫は、前週に対してガソリン、灯油、軽油、C重油は取り崩し、ジェット、A重油は積み増しとなった。

ガソリンは167.5万kl、前週差7.9万kl減。前年に対しては9.6万kl少ない。

灯油は235.0万kl、前週差4.9万kl減。前年に対しては30.1万kl少ない。

軽油は138.8万kl、前週差5.2万kl減。前年に対しては18.6万kl少ない。

A重油は79.1万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては4.8万kl多い。

C重油は162.1万kl、前週差2.9万kl減。前年に対しては0.5万kl少ない。

	(単位:千KL)		
	今週 (11/29)	前週 (11/22)	前週比
ガソリン	1,675	1,754	▼ -79 (-5%)
ジェット燃料	806	743	▲ 63 (8%)
灯油	2,350	2,398	▼ -48 (-2%)
軽油	1,388	1,440	▼ -52 (-4%)
A重油	791	784	▲ 7 (1%)
C重油	1,621	1,651	▼ -30 (-2%)
合 計	8,631	8,770	▼ -139 (-1.6%)

5 国内/元売会社製品卸価格

11月25日～12月1日のドル建て中東原油価格は前週比わずかに値下がり、為替レートはほぼ横ばいで、4日からの元売会社の卸建値はわずかに値下げされたものと見られる。

さらに、暫定税率廃止に向け補助金は段階的拡充中だが、今週の補助金(12月3日～12月10日)は、前週据え置きで、揮発油は20円、軽油は17.1円、灯油・重油は5円となった。

6 国内/製品小売価格

12月1日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比4.0円安い164.8円、軽油も同2.0円安い147.2円、灯油は18.1%ベースで同2円安い2,203円(1%ベースでは同0.1円安い122.4円)。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油は2週ぶりの値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりはなし、横ばいもなし、値下がりは全47都道府県だった。

全国最安値は埼玉県の158.5円、その次は愛知県の158.8円であった。他方、最高値は鹿児島県の176.0円。最も値下がりしたのは和歌山県(前週比6.7円安)、最も値下がりが小さかったのは沖縄県(同1.5円安)だった。

次回調査時(12/8)のガソリンの小売価格は、値下がりが予想される。

(資源公表) [週動向]	今週 (12/1)	前週 (11/25)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー 164.8	168.8	▼ -4.0	2023/9/4 2025/4/14 186.5
	灯油 122.4	122.5	▼ -0.1	08/8/11 132.1
	軽油 147.2	149.2	▼ -2.0	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) に掲載しています。

次回（2025第36号）の公表は、12/12（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange: NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate: 中値）を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。